

## 全腎協全国大会開催

### 通院事業全国に広まる

#### 中本先生の講演も

五月七日・八日の両日  
全国腎臓病協議会全国大会が  
地元九州・鹿児島で開催され  
ました。

二六日はサン・ロイヤルホ  
テルで交流会が行われました  
あいにくの悪天候のため、飛  
行機での参加者は大幅に到着  
が遅れました。

テーブルを囲んで話の花が  
咲き、鹿児島民謡あり、地球  
は生きている事を感じさせる  
「桜島火の島太鼓」の力強い  
演技があり、楽しい交流会と  
なりました。

二七日は全腎協全国大会が  
九時から、会場を市民文化ホ  
ールに移して、出席数千二百  
名が参加して行われました。  
歓迎の挨拶、来賓の挨拶に  
続き「患者の訴え」（要介護  
患者の家族・仕事を探す患者  
）として二名の方が話されま  
した。  
その後、七分科会に分かれ  
活発に討議がなされました。  
昼食の後、済生会八幡総合  
病院腎センター主任部長 中

本雅彦先生が「透析二十年  
限界説」への挑戦」と題して  
講演がありました。

現在では、三十年は生きる  
ことが出来るが、日常的な生  
活をしながら透析を続ける事  
は難しいようです。

今後の課題として合併症が  
少なく、より腎臓に近い機能  
を持つ機械・薬の開発、透析  
の方法などの研究が急務であ  
る、とのお話がありました  
「患者の訴え」の中でも訴え  
ておりましたが、全国的に  
一番の問題が通院介護の必要  
性でした。

通院介護を実施している市  
は全国でも二ヶ所、準備中  
が十ヶ所しかなく大幅に不足  
しています。稼働している所  
でも、ボランティアさんが少  
なく、一人で何人も患者を  
送迎している状態の様です。  
また、64歳以下の透析患者  
（糖尿病性腎症を除く）は介  
護保険が適用されず、通院の  
為の負担が大きく、入院せざるを得ません。

ヘルパーが付いても送迎の  
為に車に乗ることは補償がな  
いから出来ないという県など  
もあります。  
その点、北九州市は、通院  
介護の「さわやか」と、身体  
介護の「いきいき」がガッチ

## 健体康心

### 学習会へのお誘い

難病団体の総会に参加した  
ら、「健康」についての故事  
来歴の話があり、興味深く聞  
きました。

健康の二文字は、元来四文  
字熟語だったそうです。曰く  
「健体康心」と。健やかな体  
と康らかな心というのが元々  
の意味だそうです。

なるほど、と納得させられ  
ました。体が健康でも、心が  
病んでいたら、逆に心が康ら  
かでも体が病んでいれば、い  
ずれも病人です。

医学の進歩は目ざましいも  
のがあり、義足でマラソンし  
たり、神経に光センサーをつ  
けて、視力が回復します。  
DNAの発明で人間の病気の  
原因がつかめるまでになり  
ました。

りと連絡をとりあい、即、対  
応出来ます。

ボランティアの方々も素晴  
らしい人ばかりで鼻高々でし  
た。ボランティアの皆様あり  
がとうございます。

肉体的な面では完璧なまで  
医学が進んでいます。

様々な検査により、病気の  
原因が解明され、医師は、検  
査結果をみれば、患者がどの  
ような病気に罹っているのか

## ほーほー！

我が町のオアシス、紫川に  
今年も蛍が舞いはじめました  
毎年楽しみに待っています。  
渇水の時も大雨の時も蛍が  
大丈夫心配です。またまた  
自然が一杯。英彦山を通り、  
小嵐山の遊歩道のハイカーを  
やさしく見ながら、ゆっくり

と流れ、今は蛍を育むように  
静かに流れています。  
最後に、蛍を見にきた人た  
ちへーあの美しい川があるか  
ら蛍が育つのです。  
空き缶や、たばこの吸殻等  
捨てないで……

て、色々な話をしかけてくる  
と思います。

第十一回ボランティア研修  
交流会は、「患者さんの心の  
ケアと体のケア」につい  
て、専門の先生に講義してい  
ただきます。  
興味のある方は是非御出席  
をお願いします。

## 第11回ボランティア研修交流会

日時；7月9日（日）10:00

場所；小倉第一病院 6F

多目的ホール

講師；MSW 前田 公江さん

理学療法士 藤原 衣里さん

透析患者も例外ではありません。  
腎臓の機能が駄目にな  
っていても、透析治療によっ  
て、体は正常に機能できます  
でも、心が正常でない人が  
沢山います。心が病んでいれ  
ば健康ではないのです。  
今、必要なのは、心のケア  
ではないでしょうか。所が  
医療現場では、体の治療に追  
いまくらわれ、精神面での治療  
がおろそかにされています。  
そこで、ボランティアさん  
に、患者は心のケアを求め

## 食中毒にご注意を!!

食中毒が起  
きやすい季節  
です。家庭で  
の食中毒を防  
止するために  
次の点に注  
意してください。

